

京都教育大学FDニュース

No.60

2011年12月13日

FD委員会

2011年11月16日の定例教授会前(13:30～14:20)にFD研修会として「2011年度前期FDアンケート集計結果報告」がFD委員の樋口とみ子氏によって行われました。毎年度アンケートをFD委員会から教員のみなさまにお願いしているところですが、アンケート結果である受講生の声を、どのように今後の授業改善に役立て、受講生の学習意欲の促進をはかればよいのかは、アンケート結果の数値を一見しては分かりにくいことは事実です。そこで各回答項目を統計処理し、満足度の高い授業とは、教員になる意欲や動機の高まるとはどのような授業なのかを、回答項目の相関から検討してみました。

2011年度前期FDアンケート集計結果報告

京都教育大学FD委員会

1. 調査の概要

実施期間：2011年7月11日(月)～29日(金)

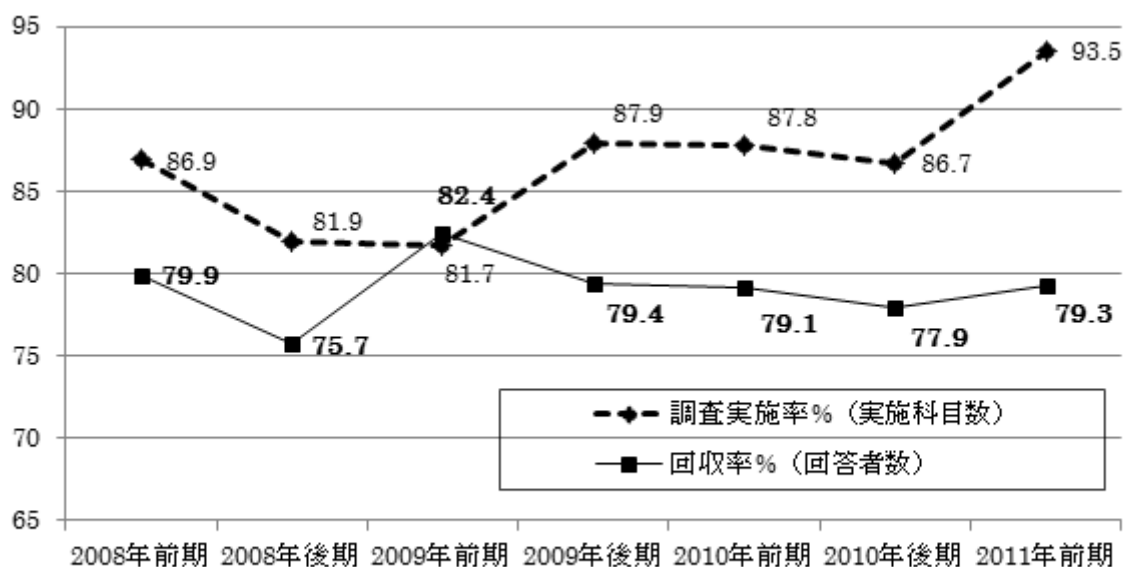
対象科目数：416

実施科目数：389(回収率93.5%)

実施科目の履修者数：14,127名

回答者数：11,199名(回収率79.3%)

過去4年間の実施率と回収率を下図に示しますが、実施率が今年度は大きく増加しており、着実にFDに対する関心や理解が定着しつつあることがうかがえます。一方、回収率は8割前後を推移していますので、今後は回収率も高めていくことが求められます。

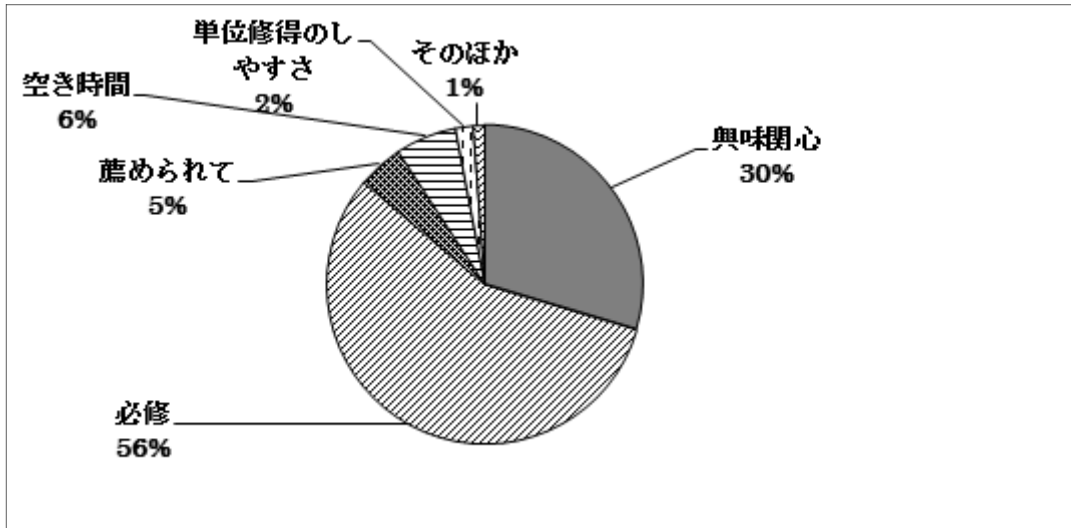


2. 結果の概要

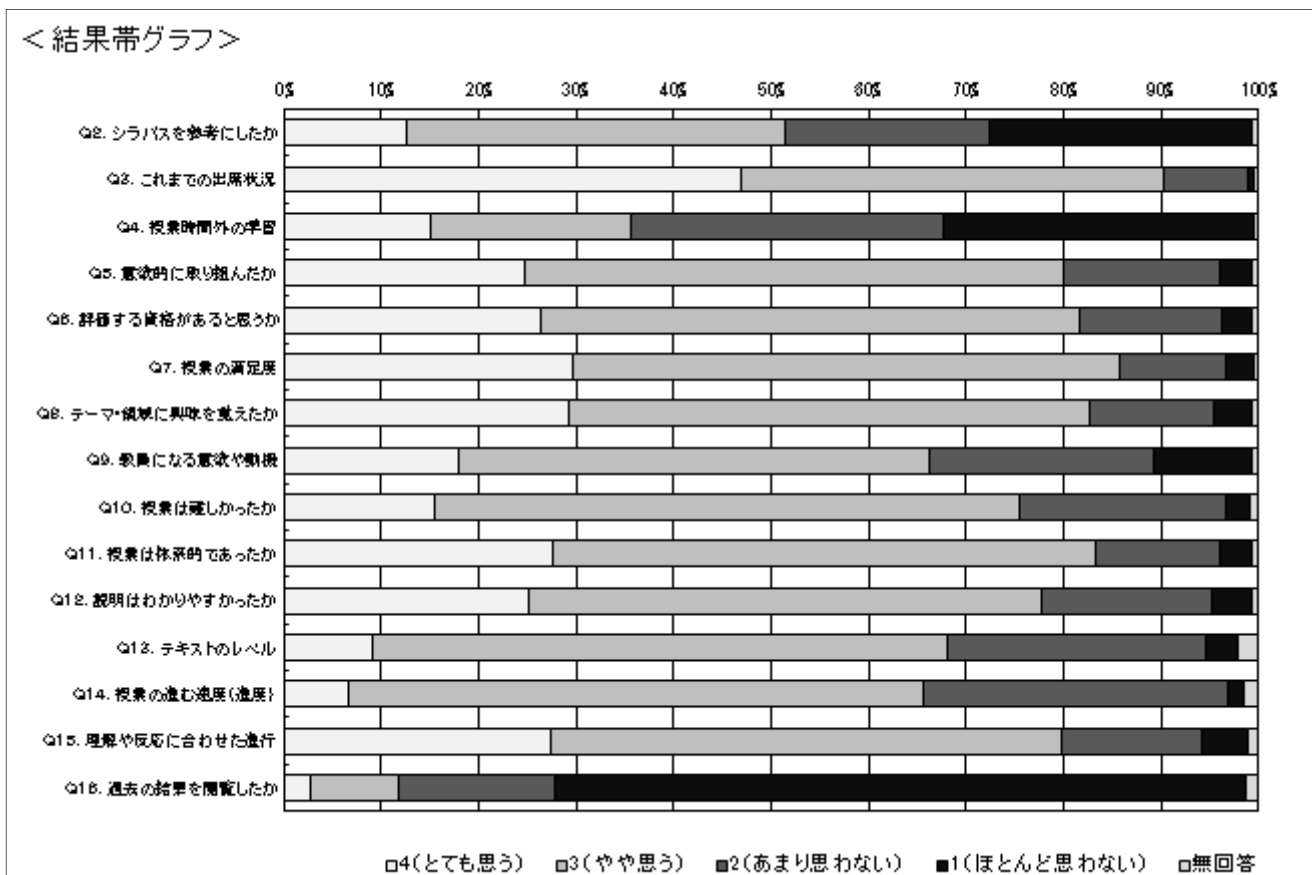
(1) 項目別の回答分布一覧

項目別の回答分布一覧を以下に示しています。今回より Q6：この授業を公正に評価する資格があると思うか，Q15：担当教員は受講生の理解や反応を受け止めながら授業を進めていたか，Q16：教育支援システム上で，過去の受講科目のアンケート結果を閲覧しているか，の質問項目が増え，それ以外の以前からの質問項目も自己評価，授業評価，教員評価に関する項目でまとめました。

■ Q 1 受講動機

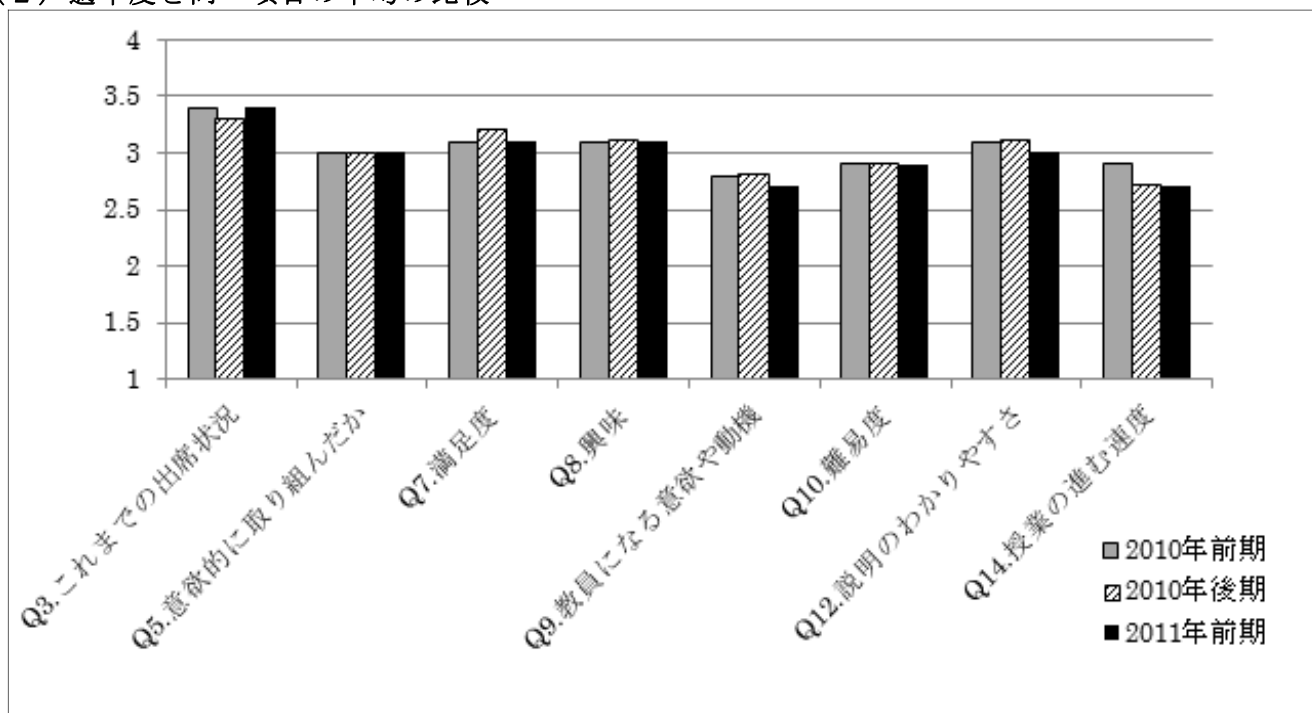


■ Q 2 ~ 1 6 全体回答分布一覧



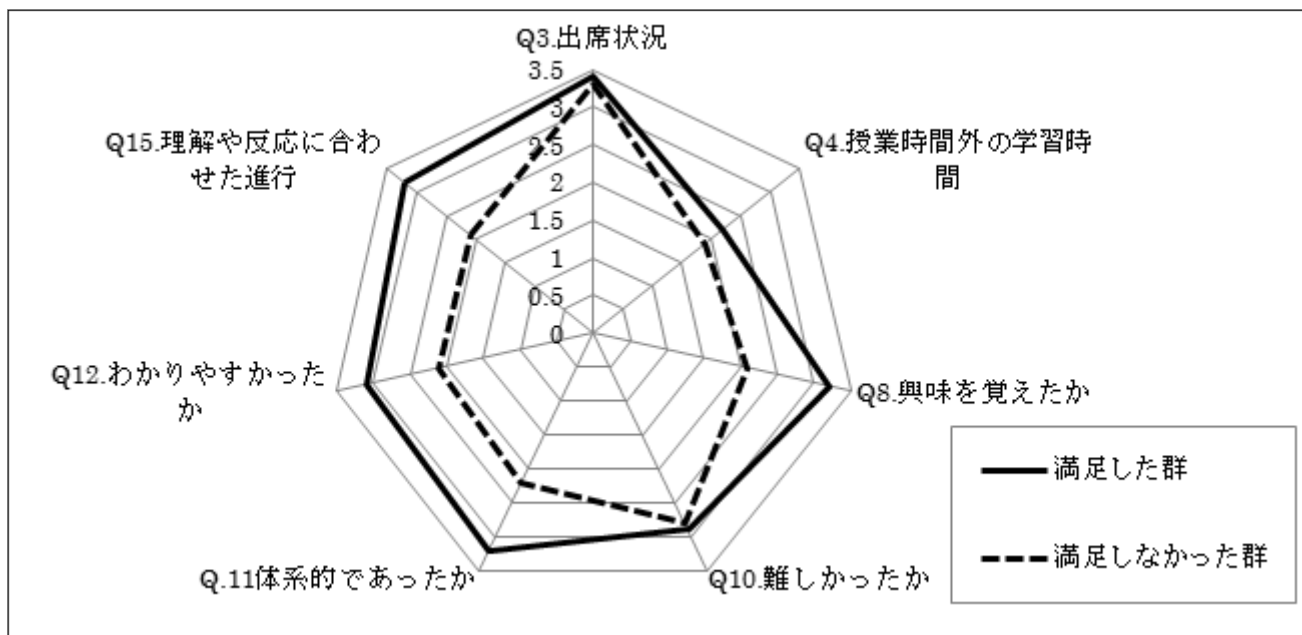
受講動機では、「必修だから」，「興味・関心」に基づく理由で全体の約8割を占め，単位修得のしやすさを理由にする受講生は2%でした。Q4とQ16を除いては「やや思う」の回答が多い傾向にあり，Q4の授業時間外の学習時間については65%の受講生が「1時間未満」で，そのうち半分が学習時間を「ほとんど費やさなかった」と回答し，学習時間があまりとられていない様子がうかがえます。

(2) 過年度と同一項目の平均の比較



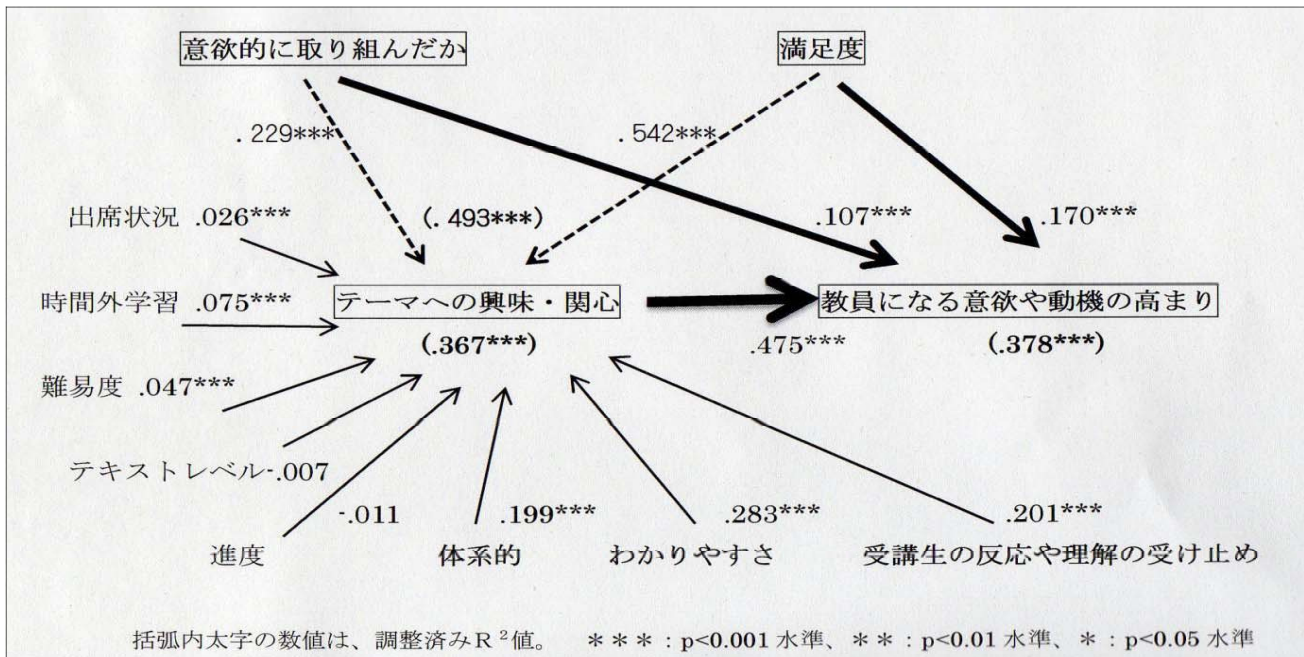
昨年度以前からある質問項目について、その平均値を比較してみると、値は大きくは変化していません。しかし、「満足度」、「教員になる意欲や動機」、「授業のわかりやすさ」の値が少し下がったことが気になります。

(3) 「満足した群」と「満足しなかった群」の違い



「授業に満足した群」と「満足しなかった群」を比較すると、出席状況や授業の難易度とはほとんど相関がなく、また授業時間外の学習時間もあまり関係がないことがわかります。一方、「授業が理解や反応に合わせた進行」をしているとか、「わかりやすかったか」とか、「体系的であったか」とか、「授業に興味を覚えたか」という質問項目と大きく関係をしていることがわかりました。授業が難しくても、体系的であったり、説明が分かりやすい、受講者の反応を受け止めていると満足度が高くなるようです。

3. 2011年度前期FDアンケート調査から見えるもの



各質問項目の相関をとり、「教員になる意欲や動機の高まり」に関するものを抜き出したのが上図です。そうすると「テーマへの興味・関心」を高めることの重要性が浮き彫りになります。さらにそれを高めるには、とりわけ「体系的」で「分かりやすく」、「受講生の反応や理解を受け止め」た授業が効果的であることを見て取れます。「満足度」という指標は非常に漠然としていますが、総和として「教員になる意欲や動機の高まり」をよく表しているようです。

4. 今後の課題

会場での質問やアンケートにより多くの感想やご意見をいただき、ありがとうございました。

代表的な感想は「毎回アンケートを受け取っても、その結果が具体的に何を意味するのか、今日の話聞いて始めてわかったように思う。良い機会になった。質問にもあったようにもう一步踏み込んだ相関や分析も伺ってみたい。」というものでした。当日にうかがいましたご意見をまとめますと、

- ・ 授業に対する学生本人の受講姿勢をふり返らせるような質問項目の設定
- ・ 複数教員によるオムニバス形式の授業に対応できるアンケート
- ・ 「自由記述」のネット上での入力の可能性
- ・ 「時間外課題の工夫」など話し合う機会の設定や「授業時間外の学習」について point の高い講義の内容の紹介、等のご意見をいただきました。

一方、重い課題もいただきました。近年、学生自体がやさしい授業を求める傾向があり、授業を受けることにより感銘を受けたり、そのような授業を受けることにより従来の殻を破るようになくなった自分を感じるものが少なくなっているようです。そのように受講生をさせるのにはどうするのがよいのか、という新しい観点でみると、今のアンケート項目では十分な役割を果たせないことがわかります。しかし、「学生の意欲をかきたてる授業、学びたくなる授業を心がけていきたい」と教員が思い続けているのなら、その糸口は見えてくるのではないかと考えています。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：安東（委員長）、杉井（副委員長）、巻本、山口（博）、樋口
事務担当（教務課）高松、大谷